

秋まき小麦ほ場の融雪材散布について

本年は2月中旬の気温が高く、また降雨の日があった結果、積雪深は多くの地点で平年を下回っていましたが(表1)、その後の降雪により平年をやや上回る見込みです。

土壤凍結は1月6日までまとまった降雪が無かったため、37cm程度と令和2年よりも少し深くなっています(帯広市ながいもほ場での調査結果。2月15日現在)。

極端に早い融雪は、凍上による根浮きを助長し生育不良になる場合がありますので、表2の目安を参考に、普段通りの作業に努めましょう。

表1 2月25日現在の積雪深 (各アメダス地点の値)

	帯 広	帯広泉	芽 室	上札内
積雪深	29 cm	39 cm	35 cm	57 cm
平年値	40 cm	平年値なし	58 cm	71 cm
平年比	73%	—	60%	80%

1 散布時期

平均気温が-3℃以上になる頃で、最高気温が0℃を越える日が続き、新たな降雪の予報がない時期に散布します。当管内では、3月8日~16日頃が散布作業を始める目安となります。

表2 日平均気温が-3℃以上となる日 (注: アメダス地点の平年値(1981~2010)より)

帯 広	帯広泉	芽 室	上札内	更 別
3月8日	3月13日	3月13日	3月16日	3月15日

2 融雪材の選定

土壤 pH が低いほ場は炭カル入り融雪材、土壤 pH6.0 以上のほ場はアルカリ分を含まない融雪材を選びましょう。

表3 主な資材の使用例

資 材 名	散布量の目安
防 散 融 雪 材	20~40kg/10a
防 散 融 雪 炭 カ ル	40~60kg/10a

3 融雪材散布上の注意

- ・ 散布後に20cm以上の積雪があった場合は、再散布が必要です。
- ・ 融雪水が停滞する場所は排水対策(溝切り)をしましょう。
- ・ 早すぎる融雪は凍害を招くことがありますので注意しましょう。

安全確認で農作業事故を防ぎましょう!